

外国語教育メディア学会（LET）

WorldCALL 2008

テクノロジーを利用した外国語教育

第3回 世界大会

～ CALL Bridges the World ～

報 告 書

内容についてのお問い合わせは、LET本部事務局へお願いいたします。

I. 主催：外国語教育メディア学会 (LET)

II. 後援：文部科学省 外務省

福岡県教育委員会 福岡市教育委員会 北九州市教育委員会
大学英語教育学会 全国英語教育学会 日本言語テスト学会 日本教育メディア学会
全国語学教育学会 日本教育工学会 映画英語教育学会 ブリティッシュ・カウンシル
(財)英語教育協議会 (財)日本英語検定協会 (財)語学教育研究所

**IATEFL Learning Technology SIG JALTCALL PacCALL
TESOL CALL-IS**

在福岡アメリカ合衆国領事館 在福岡オーストラリア総領事館

朝日新聞社 毎日新聞社 読売新聞西部本社 西日本新聞社

日本経済新聞社西部支社

NHK福岡放送局 RKB毎日放送 TNCテレビ西日本 FBS福岡放送

III. 期日：2008年8月4日（月）～ 8月8日（金） [8/4は各種会議開催日]

IV. 会場：8月4日～8月6日 西南学院大学（〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92）
8月5日 福岡大学（〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19-1）
8月6日～8月8日 福岡国際会議場（〒812-0032 福岡市博多区石城町2-1）

V. 参加者数：① ワークショップ（8/5） 221名（延べ）

② 本大会（8/6～8/8） 626名

- ・有料参加者 476名
- ・スペシャルプロジェクト発表者 3名
- ・招待者 4名
- ・奨学招聘者 13名
- ・その他、協賛企業関係者など 130名

VI. 参加者国籍：日本 302名、米国 50名、中国 31名、カナダ 14名、英国 12名

オーストラリア 11名、サウジアラビア 5名、フランス 4名、メキシコ 4名

フィンランド 4名、ブラジル 4名、ドイツ 3名、韓国 3名

その他 ニュージーランド、ベルギー、オランダ、イタリア、ギリシャ、イラン

ハンガリー、シンガポール、スペイン、キプロス、エジプト、ウクライナ

マレーシア、トルコ、インドネシア、ベネズエラ、スーダン、アルゼンチン

インド

VII. 大会報告：編集を完了し'Proceedings'として、<http://www.j-let.org/~wcf/modules/tinyd0/> に掲載

VIII. 概要：

WorldCALL 2008 世界大会は福岡国際会議場および福岡大学・西南学院大学にて、2008年8月5日より8日までの4日間の全日程で開催された（8月4日は準備委員会、理事会などの会議開催日）。本大会には、WorldCALLの名に相応しく、実に世界33カ国から600名を越える同胞が参加した。また、プレ・カンファレンスとして位置付けられた第1日目の5日に福岡大学で開かれたワークショップでは、アメリカ・カナ

ダ・アイルランド・オーストラリアからの講師を含む総勢24名によるセッションがあり、本大会とは別に延べ221名の参加があった（使用言語は6割英語、4割日本語）。

5日の午後には「市民フォーラム」が西南学院大学で行われ、NHKの英語番組で人気を博している清泉女子大学・大杉正明教授そして愛知教育大学・高橋美由紀教授が講演を行った。

本大会中は、基調講演4本（白井克彦早稲田大学総長、Vera Menezes [ブラジル]、Stephen Bax [イギリス]、Trude Heift [カナダ]）、研究発表157本、ポスター・セッション33本、コースウェア・ショウケース20本、シンポジウム4本、パネルディスカッション2本、企業プレゼンテーション21本、スペシャル・プロジェクト5本と多種多様な発表がすべて使用言語を英語で統一して行われた。大会運営の中核を担ったのは、外国語教育メディア学会(LET)であり、協力団体として、主に欧米にてCALL教育の牽引車となり、過去2回の大会（第1回メルボルン・オーストラリア、第2回バンフ・カナダ）を取り仕切ってきた EUROCALL、CALICOが側面からの支援を行った。

この大会の大きな特徴の一つとして、CALL教育途上国からの研究者に一人当たり平均30万円の奨学金（総額360万円の予算を計上）を設けて招聘するという事業があり、世界11カ国（ウクライナ・中国・イラン・マレーシア・インドネシア・アルゼンチン・トルコ・エジプト・ベネズエラ・インド・スーダン）より13名の参加があった。

大会会期中は、第2日目の夜に歓迎夕食会、第3日目には博多湾クルーズも盛り込み、大会の雰囲気づくりに色が添えられた。海外からの参加者の中には、会場となった福岡市内はもとより、近辺地および九州各方面に足を延ばす者もあった。

アジア地域で初めて開催された世界大会であったが、全日程を通じて大会運営も極めて円滑に運び、海外の関係団体はもとより、多くの参加者から数々の賛辞を得ることができた。

IX. プログラム報告 :

8月5日(火) Workshop [福岡大学]

午前の部

■「CMS入門」 講師:淡路佳昌

参加者は4名と少なかったが、その分各参加者にきめ細かい対応ができた。すべての参加者がCMSの基本を理解し、XOOPSのインストールから各種モジュールの活用、ブロックによるページ構成まで実習し、各自の授業ページを完成することができた。

■How to Blend Your Class with Ready-made e-Learning Material 講師 : 小栗成子

このワークショップには、2回合計で50名が参加した。Cengage出版の4スキル総合教材を用い、オンライン、オフラインの学習活動に、市販教材の何を どうやってブレンドするかについて、学生の立場でオンライン問題を体験しながら議論した。

■「インターネットを活用した日本語読解学習支援システム」 講師 : 川村よし子

日本語読解学習支援システム「リーディング・チュウ太」(<http://language.tiu.ac.jp/>)には、学習支援ツール、読解教材バンク、学習支援リンク集等が有機的に統合されている。本ワークショップにおいては、当該システムを参加者に試してもらいながら、日本語教育への活用方法「チュウ太の正しい使い方」について解説を行った。さらに、インターネット上の様々な日本語読解学習のための支援ツールを紹介した。(参加者 : 15名)

■「携帯電話用学習コンテンツ作成」 講師 : 下山幸成

参加者は十数名だったが、個別指導もできる適切な人数だったと思われる。内容は、携帯電話用音声・動画ファイル形式を学習し、教材を使用する学生の立場を経験し、コンテンツを作成し、それをウェブ上にアップし、そのコンテンツに自分の携帯でアクセスしてみるという流れだった。作業手順や必要なフリーウェアや便利なリンクがあらかじめウェブ上に準備されていたため、各自が安心して納得のいく進度で学習していたようである。

午後の部

■Creating Online Tasks 101 講師 : 淡路佳昌

10名の参加者がおり、Hot Potatoesで提供されているモジュールを活用して様々なタイプの課題作成に取り組んだ。グラフィックスやオーディオファイルを取り込んだ問題作成や、CGIプログラムを活用した結果回収の仕方も実習し、CMS上でHot Potatoesの問題ファイルを管理する方法を実演した。

■「日本語コーパス分析入門」 講師 : 石川慎一郎

英語コーパス研究の知見はさまざまな理論的・記述的言語研究に影響を及ぼしている。このことは、同様の方法論を使った日本語分析の必要性を示唆する。本ワークショップでは、まず、日本語語彙の諸相について、英語との比較も踏まえつつ、基礎的な情報を整理した。ついで、ハンズオン形式で、データ収集、形態素解析(文字列からの単語の切り出し)、頻度計測などの手法を実習した。

■Using Google Web Services for Language Instruction and Learning 講師 : 神田明延

定員丁度の20名が参加した。Googleの特殊検索とウェブサービスによる情報整理、共有、発信の方法を各種意見を聞きながら紹介し、実習をしてもらった。今まで検索でしか使っていなかったGoogleの多層的でありながら、シンプルなインターフェイスのサービスに、新たな発見を感じてもらえたようだった。特にGoogle Documents、iGoogle、Google Sites、Notebookなどに反響があった。

■Introduction to an authoring editor "eXe" 講師 : 岩田 淳

本ワークショップでは、午前(英語)、午後(日本語)の両セッションで国内外から計20名弱の参加があり、eXeの機能や利用方法について紹介を受けた後、eXeを利用した教材作成を実際に体験した。準備されたサンプル素材を利用し、iDeviceと呼ばれる”eXe“の教材作成ツールによって多肢選択、正誤問題、リスニング問題を作成した参加者からは、「思ったより簡単に教材ができた」、「今後の教材作りに活用したい」との感想が寄せられた。

■Moodle Site Management and advanced activities 講師：原島秀人

この英語によるワークショップは10人程の参加者があり、Moodleのカスタマイズやデータベース管理、データベースモジュールやホットポテトモジュールの使い方を学習しました。途中アクシデントでデータベースが破壊されワークショップ用に用意したMoodleのコースにアクセスできなくなり、参加者には迷惑をかけましたが、バックアップ用に用意した別のコースで何とか乗り切りました。ワークショップ後直ぐにデータベースを復旧したので、参加者は自宅でテキストに基づいて演習をこなしてくれたものと思います。

■Moodleによる教材管理とコース運営 講師：原島秀人

この日本語によるワークショップは5人程の参加者があり、Moodleのカスタマイズやデータベース管理、データベースモジュールやホットポテトモジュールの使い方を学習しました。英語ワークショップで壊れたデータベースも復旧し、問題もなく非常にスムーズに進行しました。

8月5日(火) 市民フォーラム [西南学院大学]

第1部 講演・ワークショップ「楽しく始めましょう、小学校英語」

会場：西南学院大学Ⅱ号館8階大会議室 時間：16:00～17:30

講師：高橋美由紀(愛知教育大学)

第2部 講演「大人の英語学習」

会場：西南学院大学大学チャペル 時間：18:00～19:50

講師：大杉正明(清泉女子大学)

内容：第1部・第2部とも、西南学院大学副学長の挨拶後に講演が始められた。第1部は、英語ノートのより効果的な使用法を具体例として、小学校英語のあり方が講じられた。歌・ゲーム等多数のアクティビティの実践演習も組み込まれ、参加者には、密度の濃い講義・ワークショップの時間となった。第2部では、大人と子供の英語学習の違いの概説後、大人のためのより効果的な学習法の見つけ方が紹介された。参加者と講師の間でのやりとりを含め、講演は終始なごやかな雰囲気の中で進められ、予定を20分超過しての講演となった。

8月6日(水)～8日(金) WorldCALL 2008 [福岡国際会議場]

■Presentation 1 [8月6日(水) 10:40～12:15]

409室

発表1：Demystifying teachers' online roles: A pragmatic look at online practice

発表者：Tony Cripps (Ritsumeikan University)

内容：オンライン教育での教師の役割を検証し、実際の相互交渉に焦点をあて、学生が自立的な学習者に育ったかを調査した。学生の自立の支援策として、テクノロジーの使用法、相互協力、責任感等を強調した。教師の役割、介入の仕方、柔軟性の重要性等がとりあげられた。4名の参加者から質問があった。主なものは、group projectやgroup leaderについてであった。

発表2：Collaborative CALL strategy training for teachers and learners

発表者：Howard Pomann (Union County College)、Philip Hubbard (Stanford University)

内容：学生の言語学習目標を達成させるために教師と学生が具体的に使用できる方略を開発する共同的CALL訓練計画を策定した。教師の役割を検証し、実際の相互交渉に焦点をあて、学生が自立的な学習者に育ったかを調査した。結果は教師の役割はきわめて複雑であることが判明した。問題は教師の負担増、無料のソフトを調達すること、教師と学生が目標と方略の一致を認識しているかどうかということである。4名の参加者から質問があった。主なものは、教員と学生が目標と方略の関連性を理解しているかどうかについてであった。

410室

発表1 : Mediation, materiality and affordances: Using multimodal online tools for language learning

発表者 : Regine Hampel

内容 : 25名の参加者を対象に実施した、ドイツ語学習オンライン・コースウェアの5週間プログラムの紹介がなされた。同プログラムの特徴は、コンピュータ・コミュニケーション(Computer-Mediated Communication:CMC)を用いることで、ネット上でのミーティング(flash meeting)を通じて、教師と学習者とのコミュニケーションを図ろうとするものである。聴衆からは学習の効果についてなど、質問が多数出た。

発表2 : Developing courseware to preserve, disseminate and empower "small" languages: The case of modern Greek

発表者 : Frieda Charalabopoulou, George Carayannis

内容 : 現代ギリシャ語の初級外国語学習者向けマルチメディア・コースウェアが紹介された。"Filoglossia"と呼ばれる、同プログラムは現実の言語場面での適切な発話を重視するコミュニカティブ・アプローチCommunicative Approach (CA)の立場から作成されており、教材はギリシャの生活・習慣・文化などの場面設定がなされている。学習者からの反応について、コースウェアの入手方法など、質問が多数出た。

411室

発表1 : The JKCE Project: Japanese and Korean EFL students communicating online

発表者 : Christopher Chase

内容 : 日本と韓国の学生たちによるCMC技術を使ったonlineによるcommunicationの様子が報告され、活発な質疑応答が行われた。

発表2 : French Online: The natural bridge between classroom and distance learners

発表者 : Bonnie L.Youngs & Marc Siskin

内容 : Webベースの教材French online の開発理念、仕組み及びその内容が紹介された。参加者からは学習者の履修方法等について質問があった。

412室

発表1 : Glexamotion, an audiovisual comprehension learning experience

発表者 : Akio OHNISHI & Goh KAWAI

内容 : 大西氏が開発したGlexa (Web上での学習システム) で作成されたGlexaMotionとGlexaPhoneのデモがメインであった。GlexaMotionとは、動画内に表示される問題に答えていくプレーヤーで、学習者は集中して会話練習ができる。GlexaPhoneは、疑似電話教材である。従来のオンライン教材のほとんどは受け身的であったが、本教材では、活発に会話の練習ができる。発表を聞いた参加者も実感していたようであった。あらゆるレベルの学習者に対応できるように問題作成ができるシステムであるとのことであった。

発表2 : Using multimedia projects to integrate language and culture

発表者 : Sharon Scinicariello

内容:マルチメディアを利用して、学習者の発表能力と文化知識を高める学生プロジェクトを、実際の授業にどのように取り入れるかについて報告された。学習者が利用するのは、音声・画像つきWebページ、音声付パワーポイント、ポッドキャスト、デジタルビデオなどである。クラスがどのように進められるかに加えて、プロジェクトの位置づけ、その評価などが説明された。評価についての質問に対して、クラス内でのディスカッションで主に評価されるとの回答であったが、その詳細な基準は明確ではなかった。

413室

発表1 : Voice blogs: An exploratory study of language learning

発表者 : Yu-Chin Sun

内容 : Yu-Chin Sun described the benefits of blogging and showed how she used voice blogging in her speaking class at a university in Taiwan to overcome the difficulties of large class. Through the well-designed triangulated methods, she showed that voice blogging over one semester did not contribute to improving speaking proficiency because of the conditions she gave to students: sense of freedom, more focus on content, and more risk taking. However, she showed students spared more time than expected and they rehearsed before recording and redid their recording several times.

発表2 : Corpus-assisted creative writing: Adding a monolingual corpus to an intermediate language learners' reference toolkit

発表者 : Claire Kennedy and Tiziana Miceli

内容 : Claire Kennedy showed how corpus (Contemporary Italian Corpus) could be used to write well (i.e, producing autobiography) in Italian at an Australian university. Specifically, she focused on "Pattern hunting" (finding, exploration, PH) "pattern defining" (confirmation, PD), and finding an Italian equivalent for a given English pattern (IE). With the three participants (Case Studies), she found the variation in the use of corpus among three types, and she concluded that it is partially because of the interface of the corpus.

414室

発表1 : Wang氏不在のためキャンセル

発表2 : Can the intelligent use of half-open questions, based on approximate string matching, improve the effectiveness of CALL environments?

発表者 : Piet Desmet, Bert Wylin

内容 : コンピュータ上で実施するhalf-openタイプの問題について、Approximate String Matchingを活用して正答処理とフィードバックを改善する試みが発表された。

502室

発表1 : HumTV: New directions for broadcast media in the language classroom

発表者 : Harold H. Hendricks & Mel Smith

内容 : 本発表は、Brigham Young University が開発した、HumTV と呼ばれるテレビ番組の録音及びオンデマンド配信システムの紹介である。第1発表者のHendricks氏が教育上の運営面について、第2発表者のSmith氏が技術面について説明した。テレビの録画・配信システムを多額の予算を使って独自開発する意義や、オンデマンド配信に付随する著作権の問題について、活発な質疑応答がなされた。

発表2 : Improving grammar in 6 minutes: An online Grammar Challenge

発表者 : Catherine Chapman & Paul Scott

内容 : 第2発表者のScott氏は所用により来日することができず、Chapman氏が1人で発表を行った。本発表で紹介された "Grammar Challenge" は、BBC Learning English が製作したインターネット上の番組である。1本の番組は6分間であり、中級英語学習者が自主的に文法的な正確さを向上させられるように、設計されている。発表は、この番組の企画が始まってから現在までの経緯を説明することが、中心であった。文法に絞って番組を作った理由などをめぐって、活発な質疑応答がなされた。

503室

発表1 : キャンセル

発表2 : International Sharing of Learning Content and its Metadata in Language Education

発表者 : Tsuneo YAMADA

内容: Global Learning Object Brokered Exchange (GLOBE) と称される高品質の学習オブジェクト(再利用可能な素材型教材)を、地球規模で流通、共有再利用させる目的で結成された国際コンソーシアムの概要と課題に関する発表が行われた。コンテンツに様々なメタデータを付すことで、品質が保証された学習オブジェクトを教師、学習者に提供できるとの発表者の提案に対して、ソーシャルネットワークで見られるユーザによる評価等もメタデータとして活用できる可能性があるとの示唆が聴衆から出た。

■Presentation 2 [8月6日 (水) 13:45~15:55]

409室

発表1 : The use of ICTs in foreign language teaching: The challenges of a teachers' education program

発表者 : Claudia Beatriz Monte Jorge Martins, Carla Barsotti

発表2 : Help shape TESOL' s new technology standards

発表者 : Philip Hubbard (Stanford University)*, Greg Kessler

発表3 : Practical information on CALL for language teacher training

発表者 : Tadayoshi Kaya, Akiyo Mineuchi, Takashi Shimada

内容:最初の発表は、ブラジルの大学の外国語教育専門家養成コースにおける参加者のICTに関する知識、経験、技術の進歩状況をまとめたもの。2番目は教師、および学習者が持つべき、TESOLに必要なデジタル技術のスタンダードを提案した発表。最後は、CALLに関わっている教師に教育環境に関するアンケートをとってまとめたもの。常時30名前後の参加者がいて、特に2番目の発表は、様々な質問や意見が飛び交い、持ち時間をオーバーしてしまった。

410室

発表1 : Using CALL and computerized dictionaries to maximize vocabulary and language learning

発表者 : Loucky, John Paul

内容: Loucky, John Paul (Seinan Jogakuin College) introduced various Web sites to learn vocabulary effectively, such as <http://www.wordchamp.com/lingua2/Home.do>. Since no questions were asked during the Q&A session, he continued to explain his project.

発表2 : Development of a multimodal SNS system for use in language education

発表者 : Ishizuka, Hiroaki, Kibler Roland, Ryuichi Yorozuya

内容: Hokkaido University of Education developed a web-based tool 'CELE-NET' for Japanese elementary school teachers. This tool enables the teachers who are enrolled not only to download teaching materials free of charge, but to share information among the members. One question from the floor was related to how to register as a member.

発表3 : Intermediate online English: An example of self-access courseware development

発表者 : Ana Gimeno-Sanz

内容: Ana Gimeno-Sanz (Universidad Politecnica de Valencia) introduced a CALL authoring shell 'Proyecto InGenio' including templates that videos, graphics, audio, and texts, which was available to many language learning. Questions included whether or not instructors from other countries could make use of this courseware.

411室

発表1 : Bridging the world' s ESL students: Oceans apart, learning together

発表者 : Nathan Streng

発表2 : Facilitating collaborative language learning in a multicultural distance class over broadband networks: Learner awareness to cross-cultural understanding

発表者 : Yuri Nishihori

内容 : 山形県の高校での授業実践に関する Nathan Streng氏の発表には20名、北海道大学と韓国・中国・タイの大学とのビデオコンフェレンスの実践について報告したNishihori, Yuri氏の発表には50名が参加した。UAE大での基礎教育の方法について、女性の大学進学の実状とともに報告したRachel Lange氏の発表には25名が参加した。

412室

発表1 : Narrated video slideshows: An efficient way to integrate video production into language classes

発表者 : Sergio Mazzarelli

内容 : 学習者の意欲を高めるために、学習者に音声付スライドショーなどを作成させる授業形態が紹介された。生徒の作品は、YouTubeに投稿され、簡単にweb上で共有することができる。生徒に、現代の日本文化を紹介する作品などをつくらせることにより、英語で表現しようとする意欲が非常に高まっていることが、実際の学生作品からも感じられた。評価については、基準が作成されているとのことであったが、詳細は不明であった。

発表2 : Phonics rhymes

発表者 : Mike Canevari, Ryuji Tabuchi

発表3 : Effects of rhythmic pronunciation practice with animated materials focusing on English prosody

発表者 : Hideyuki Sonobe, Makoto Ueda, Shigeru Yamane

内容 : 一つめの発表の聴衆は25名でした。内容は小学生に対する英語の導入の仕方の工夫についてで、日本語を介在せずに直接英語で考えることができるようにするために、PCにスポットライトを当てた絵を表示し、英語を教えるという実践報告でした。二つめは45名の参加がありました。PCで英文表示をして英語を教える際、強調する部分の文字をアニメ調にしたり、その部分の読みに合わせて手をたたかせて定着をはかるやり方が効果的という報告でした。

413室

発表1 : Teaching to the Test with Technology

発表者 : Bernard SUSSER

内容 : The speaker intentionally used "low-tech" presentation (i.e., using only the paper handout) to talk about his teaching supported by "high-tech" and this drew more concentration of the audience and triggered very active Q & A interaction.

発表2 : Metacognitively Enhanced Writing Courseware: Kagoshima Academic Writing Space

発表者 : Robert J. FOUSSER

内容 : Introduction of really new technology including the usage of Moodle Light, mobile phone compatible LCMS. Very informative.

発表3 : Writing through CMC Modes: Three Case Studies of Integrating CMC in EFL Writing Courses

発表者 : Ching-Fen CHANG

内容 : Very neat presentation. Because of very active Q & A interaction, the Q & A period was fully used.

414室

発表1 : Integration of ICT for effective learning, teaching and assessment

発表者 : Debbie Corder

内容 : The presenter started off by saying that so-called using emerging technologies such as wikis, blogs and e-portfolios are becoming familiar and essential scene in education. She further discussed that social networking websites such as Facebook, and VLEs such as Second Life are being explored for their educational potential for language learning. The presenter detailed her own experience as a Japanese language teacher who has achieved a desired and unexpected outcome through the use of such tools.

発表2 : Giving useful feedback on free text open-question activities with NLP

発表者 : Bert Wylin, Piet Desmet

内容 : The presenters reported on an experiment with an open question activity that provides useful learning feedback on matched and missing keywords in students' answers. NLP techniques enabled students to maximize their input variation and to reduce the number of unrecognized keywords. Further, the presenter talked about how they managed to use NLP techniques with big student groups (+500), the system showing that feedback variation stabilizes at 50 to 70 students' answers. There were active questions exchange.

発表3 : The online collaborative evaluation of the practice of shadowing

発表者 : Nobuhiro Kumai

内容 : The presenter discussed how shadowing practice has been effective but that it is relatively difficult to evaluate the activity. He then introduced his practice of online peer evaluation of shadowing practice. By using Wimba Voicetools and Moodle, he demonstrated that this collaborative evaluation of students' can be comfortably achieved. The presenter had active exchange of questions from the audience.

502室

発表1 : Mobile learning for Italian: Extending and refining the approach

発表者 : Claire Kennedy, Mike Levy

内容 : After some theoretical introduction by Levy, Kennedy gave a presentation on the topic in a very warm and lively atmosphere. Many people wanted to ask questions and give comments.

Six were chosen and answered. The questions were about costs of SMS, more precise feedbacks from the students, key elements in succeeding in SMS and so on. The feedbacks from the students were unexpectedly good and they even wanted have some interactions just like the presentation they made.

発表2 : Learning on the move: Applying podcasting technologies to foreign language learning

発表者 : Wai Meng Chan

内容 : After the lively presentation by Claire and Mike, more people joined the mobile learning room. Chan made his presentation in a warm but a bit less lively atmosphere because he had to speak so quickly with many stuff to share with the audience. It finished with a humorous ending, sounded like a pseudo-professional radio program but the theme music was not received well by the students. There were also many questions, and five were chosen answered. The questions were about how much time it would take to produce one podcast, whether the students used a mobile phone or a PC, the language used in podcasting. In a comment, it was said that more data based on survey than statistical analysis were preferred.

503室

発表1 : New models of college English teaching: integrating CALL in China

発表者 : Jinguo Mo

発表2 : CALL in Turkey: Past, present and future

発表者 : Sedat Akayogu, Ferit Kilickaya

発表3 : Blended learning of Japanese between Tokyo and Taipei

発表者 : Kaoru Fujimoto

内容 : 8月6日503室13:45から以下3編の発表が行われ、いずれの発表にも14名の出席者があった。第1発表(d-024) : 中国Southeast University のJinguo Mo氏による” New models of college English teaching: integrating CALL in China ”. 中国において過去10年間に実施されたCALLを活用した教育プログラム開発に関する発表。第2発表(d-032) : Middle East Technical University のSedat Akayogu, Ferit Kilickaya氏による ” CALL in Turkey: Past, present and future” (発表者Kilickaya氏1名)。トルコにおけるCALL導入の歴史、現状および教員訓練の必要性について。第3発表(d-039) : 首都大学東京の藤本かおる氏による” Blended learning of Japanese between Tokyo and Taipei” 。東京、台北間で行われたCALLを用いた遠隔授業に関して。第1,3発表は滞りなく時間どおりに行われたが、第2発表において備え付けPCの不具合から開始が10分弱遅れたため、質問時間を5分に短縮することになった。

■Presentation 3 [8月6日 (水) 16:35~18:10]

409室

発表1 : Utilizing ICT to enhance teacher collegiality.

発表者 : Hiroko Suzuki, Peter Collins

Content: An explanation of a 3-year study that used ICT to help support English teachers in the Tokai University high school system. Particularly, they wanted to encourage teachers to use more English in the classroom. However, the ICT system began to facilitate and engender greater teacher collegiality at the schools.

Questions: Some questions regarding the system, whether it might work in a public setting, and difficulties in getting teachers to participate actively.

Impression: Well organized, well delivered and well received.

発表2 : Investigating technology integration into the English curriculum in German secondary schools with a focus on teachers' perspectives

発表者 : Euline Cutrim Schmid

Content: A report on the attitudes, training, and behaviors of English teachers in German high schools who use interactive whiteboards. It was found that the effective use of whiteboards required training and support to maintain a student-centered and pedagogically sound teaching approach and activities.

Questions: Some questions about whiteboards (cost and frequency of use in Europe).

Impression: I let the report of the study go a little overtime since there were few participants and I anticipated (correctly) few questions. The author is an expert on interactive whiteboards and her study and findings were interesting for the Japan-based audience since whiteboards are beginning to be adopted more and more in Japan (as some audience members commented).

410室

発表1 : Machine Translation Websites: Communication Tools but an Impediment to Communicative Competence

発表者 : Peter RUTHVEN-STUART

内容 : The presentation started with questionnaire asking the audience (about 28; most teach in Japan) to judge whether six texts had been translated from Japanese to English using machine translation or by a student. This was done to show how difficult it is to judge. A student survey revealed that 43% use free translation software on the Web. The presenter suggested teach-

ing students how to use such IT tools rather than banning them.

発表2 : Factors Affecting the Integration of Courseware into a Communication Course

発表者 : RUTHVEN-STUART, Charles WIZ, Michael VALLANCE, Dominic BAGENDA

内容 : The use of commercial courseware was examined for 110 low-level non-language majors in graduate school. After 23 study weeks, the lower level students showed improvement but the higher level students remained at about the same level, possibly due to the lack of incentive. The audience of about 20 was told that instructor attitude toward the courseware and the total number of hours spent studying affected student performance. Better results were observed for those who studied 46:08 hours or more.

411室

発表1 : Tellecollaborative learning with interaction journals

発表者 : Vogt&Miyake

内容 : 本研究は、ドイツと日本の大学生の一対一のinteractional journalの記録分析を通じて、異文化間コミュニケーション能力の発達について報告した。ドイツ人学生が日本人学生とメールでのinteractionを重ねる内に、しだいに文化的な差異に気づくプロセスが浮き彫りにされた。言語習慣やPragmaticなレベル (たとえば議論での意見の表明の仕方や、会話における人間関係の保持の仕方など) のすれちがいや誤解についての分析結果が報告された。

412室

発表1 : Interactivity and Authentic Media in CALL

発表者 : Sue K. Otto & James P. Pusack

内容 : 学生の興味・関心をひきつけるリアルな教材を用いて繰り返し学べるCALL環境の事例紹介であった。学生TAや大学常勤のテクニカルスタッフが教員と連携し、CALL運用で懸念されがちな機械トラブルや著作権の問題処理に適切に対応していることが質疑応答で明らかにされた。

発表2 : Curriculum integration: Computer-based listening activities

発表者 : Nathan Krug, Patrick Rates, Michael Shawback and Mark Wright

内容 : 日本の大学で、いかに年次を追う毎に「英語の進捗状況」を学生が段階的に確認しながら、英語力を伸ばしていくかの実践報告がなされた。シラバスの組み立て方に工夫が見られ、四技能を柔軟なバランスで力をつけていく工夫と教員間の連携の必要性が強調されていた。

413室

発表1 : Modeling language learners' knowledge state: What are language students' free written productions telling us?

発表者 : Sylvie Thouesny, Françoise Blin

発表2 : Engaging collaborative writing through social networking

発表者 : Vance Stevens

内容 : 2件の発表があった。1件目は18名の参加者があった。フランス語学習者の作文にみられる形態的統語的エラーの分析が、学習レベルのモデル化に役立つことが示された。2件目は40名の参加者があった。aggregation、tagging、RSSをブログに利用することにより、学習者の作文に対する意識が向上することが指摘された。また、会場と海外との音声会話の実況があり、参加者の興味を引き付けた。両発表は当日最後のセッションであったが、多数の参加者により活発な議論がなされた。参加者のほとんどが海外からの参加者であったことは印象的であった。

414室

発表1 : Re-designing the computer-assisted language exams for federal government employees:

Didactic, methodological, and technical challenges

発表者： Wylin, et al

内容： reported on the computer-based exams for federal government employees

発表2： An analysis of Japanese University English entrance exams using corpus-based tools

発表者： Kitao & Kitao

内容： reported on the analysis of the entrance exams in Japan
ended 5 minutes earlier than scheduled.

502室

発表1： Developing and delivering content-based instruction through the Internet

発表者： Hiroko Sato and Hajime Kumahara

内容：米Rice 大学におけるナノ技術を扱った日本語教育の実践とそこで利用されたネットワーク及びソフトウェア技術が紹介された。

発表2： Guiding the e-learner in foreign language and communication courses

発表者： Maija Tammelin, Berit Peltonen & Pasi Puranen

内容：フィンランドの高等教育機関におけるe-learningの学習者の指導に関する実践、特にガイダンスの重要性について発表が行われた。発表後、e-learningプログラムの目的など多彩な議論があった。

503室

発表1： Film clips as source material in the foreign language classroom

発表者： Mark Kaiser, Chris Palmatier

内容：ビデオクリップをデータベース化する発表であったが質問は著作権の問題に多く触れていた。またデータベース化するために内容についてのタグを打って利用していたがそのタグの打ち方について自動化できないか等の質問がでた。

■Presentation 4 [8月7日 (水) 10:10~11:50]

409室

発表1： An Exploratory Study on Learner Characteristics and the Use of Moodle

発表者： Chiu TSUO-LIN

内容：研究の目的、手段、結果、考察ともよく資料が準備され、わかりやすい口頭発表であった。

Moodle使用における学習効果の個人差を、学習動機との関連があると仮定して、分析していた。しかし、強い相関性はないと考えられる。質問者は、5名。

発表2： Employing CANDLE Reading and Moodle to Promote Extracurricular Extensive Reading: From Learners' Perspectives

発表者： Yu Hsiu LIN

内容：言語学習LMSであるCANDLEを使用してのExtensive Readingプログラムの実践と結果を、豊富な資料とともに発表していた。プログラムにはCANLDEとなっているが、正しくはCANDLEであることを司会者から訂正した。質問の時間には、国際学会らしくイラン、ウクライナの教育現場からの意見も交えて、活発な議論が行われた。

発表3： キャンセル

410室

発表1： The roles of quantifiers in argumentative writing and classroom activities in a corpus-based approach

発表者： Nozomi Miki

内容： This presentation reported the roles of quantifiers in argumentative prose and pedagogical

cal implications based on the data analysis. The number of attendants was 16, among whom questions concerning data analysis, etc. were raised.

発表2 : Collaborative corpus research

発表者 : Tetsuya Kashiwagi

内容 : This study reported the perspectives of the corpus compiled by learners. Among 17 attendants, details of the results and pedagogical implications were confirmed.

発表3 : The marriage between corpus-based linguistics and lexico-grammar instruction: Using advise, recommend, and suggest as an example

発表者 : Wen-Shuenn Wu

内容 : This paper argued the use of corpus for lexico-grammar instruction. Over 20 people attended and discussed the further possibilities of the pedagogical solution.

411室

発表1 : Learner Strategy Use in an Avatar and Chat-based Virtual World

発表者 : Mark PETERSON

発表2 : A High School and College Joint Project Using Text and Voice Correspondence for Business Language Training

発表者 : Goh KAWAI, Miki MISUMI

内容 : 本会場では2つの発表が行われた。1件目の発表では、ヴァーチャル・リアリティーを活用した実践と研究結果が報告された。ヴァーチャル・リアリティーへの関心は高く、会場には約30名の参加者が集まり、活発な意見交換が行われた。2件目の発表では、求人募集広告の作成を活用した、高校生と大学生とを結ぶ実践とその調査結果が報告された。会場には約20名の参加者が集まり、実践のさらなる広がりに関して活発な意見交換が行われた。

412室

発表1 : Reconsidering visual teaching materials in the Digital Age

発表者 : Junichi Azuma

内容 : 初期の英語学習者のための、デジタルピクチャーや簡単なデジタルアニメーションを用いた aspect や voice などの文法概念や文法構造の指導法に関する提案。ネット上の既存のデジタルコンテンツを組み合わせて利用することで、比較的簡単にオリジナルのデジタルピクチャーやデジタルアニメーションが作成できることを提示。学習者がPCや携帯からアクセスできるため、学習の動機付けを促す。テクニカルな質問に対して、実際のサイトからコンテンツを拾って組み合わせるデモなども行われた。

発表2 : Development and practice of an electronic phrasal verb wordbook with GIF animations

発表者 : Shinsuke Yoshida

内容 : 句動詞の学習を容易にするため、プロトタイプ理論に基づき、句動詞の中心概念をGIFアニメーションを用いた動画で提示する試み。提示されたデジタル動画は take back, hold on, give in, turn over, run down 等に関するもの。これに対して行われた質疑では、句動詞の意味構造は必ずしもプロトタイプ理論でうまく処理できるわけではない複雑なケースが含まれるため、学習効果を単純には評価できないというものが見られた。

発表3 : How can 3D visual worlds contribute to language education?

発表者 : Ton Koenraad

内容 : 音声対応の3Dバーチャル世界を用いて、初級英語学習者の学習動機を高め、課題訓練を通じて実際の言語習得を目指すもの。パイロットスタディでは、学生の助手を使って、学習者が発話能力を測る課題準備のためバーチャルなロールプレイやバーチャル世界での活動を行うためのサポートを行っている。しかし、この発表は残念ながらデモとして3Dバーチャル世界を探訪する途中で、操作上のトラブルを抱えてしまい、未消化のまま終了となったため、質疑応答は割愛となった。

413室

発表1 : Students' learner autonomy in their investment in extensive reading class

発表者 : Takayo Kawabe

発表2 : EFL students' language awareness in an e-mail tandem activity

発表者 : Akihiko Sasaki, Osamu Takeuchi

発表3 : The effect of on-line peer feedback on EFL writing: focus on Japanese university students

発表者 : Kunitaro Mizuno, Reina Wakabayashi

内容 : All three presentations were on EFL in Japan, and the peak attendance during the session was about 40. Kawabe reported on "students' learner autonomy in their investment in extensive reading class" quoting student comments on blogs and journals, and concluded that they experienced "dialogical process", "discovery", "authoring", etc., which she considers important. A video clip of a student's oral presentation was shown as part of the paper.

Based on an email exchange project between Japanese EFL and American JFL students, Sasaki illustrated cases in which his students' analyses of peer L2 (JFL) errors seemed to contribute to their improved awareness of target language (EFL) structures.

Mizuno and Wakabayashi presented on a writing course in which, after a period of studying well-written essay examples and meta-knowledge training, student-produced essays and scores were discussed online with peers in "interactive writing community" for subsequent revisions/compositions, and argued that the approach contributed to improvement in student essay qualities.

Questions/comments from the audience included those on methods of assessing students (Kawabe), student oversimplifications of L2 rules (Sasaki), and the nature of teacher feedback to student essays (Mizuno and Wakabayashi).

Session chaired and reported by Toshihiko Shiotsu

414室

発表1 : Pervasive CALL learner training for improving listening proficiency

発表者 : Philip Hubbard, Kenneth Romeo

内容 : CALLを利用して学習する事は広まっているものの、未だ普通のコースにきちんと組み込まれていなかったり、効果があるかの検証が弱い事が多い。本発表は、CALL学習での事前事後調査をしっかりと行い、データを取り、きちんと分析が行われていた。データがはっきりしていて、分析の手法も明確だったため、フロアからの質問にも適確に答えていた。

発表2 : Listening training for Japanese high school students using web-based software

発表者 : Yasuyuki Mizohata

内容 : 発表者が独自に開発したウェブベースのリスニング・ソフトウェアについての発表が行われた。会場で実際にソフトウェアを動作させ、このソフトを使用して事前事後で効果が上がったかどうかを示した。事前事後の検証方法やデータ分析に少し甘さがあったせいか、フロアからは手厳しい質問やコメントも多々出たが、ソフトの開発自体は良く行われていた。

発表3 : A principles-based approach to teach listening in a CALL-integrated classroom

発表者 : Chen-Hui Tsai, Lisha Xu

内容 : 発表者らが開発した、中国語リスニング学習ソフトについての説明が行われた。中国語教育、特にリスニングにおいては、未だ古い手法がとられる事が多く、CALLを利用して効果的に行われる事が少ない。発表者らは開発したソフトが教育的にどのようにデザインされ、効果あるものになったかを示した。機器トラブルのせいで、実際に開発したソフトを示す事が出来ず、口頭でのソフトの仕組み説明になり、少々分かりにくかったせいか、フロアからの質問が無くコメントのみであったが、概ね好意的なコメントであった。

502室

発表1: Construction of gender in intercultural online language learning environments

発表者: Nina Langton titled

内容: The first presentation by Nina Langton titled "Construction of gender in intercultural online language learning environments" had 15 participants. She reported how gendered identities are created in online communications.

発表2: SNS activities between Japanese students and Internet users from all over the world: Seeking friendship beyond the classroom

発表者: Tomoko Nozawa

内容: The second presentation by Tomoko Nozawa titled "SNS activities between Japanese students and Internet users from all over the world: Seeking friendship beyond the classroom" had 40 participants. She reported about her original online English learning space created on an SNS service.

発表3: Enhancing cooperative language learning and intercultural experience through the use of technology

発表者: Masayuki Kato

内容: The third presentation by Masayuki Kato titled "Enhancing cooperative language learning and intercultural experience through the use of technology" had 26 participants. He reported his practice in English classes using a BBS internationally.

503室

発表1: Introducing computer-assisted language learning (CALL) into traditional EFL programs in Saudi Arabia

発表者: Abbad Alabbad

内容: サウジアラビアの大学生は英語学習に積極的ではない傾向が見られるが、その原因が伝統的な grammar-translation methodにあるのではないかと考え、実験クラスにおいてCALL学習 (Web-based interactive program、Video利用したtask-based activitiesなど) を導入したところ、約90%の受講生に英語学習態度に変化があり、英語学習が楽しいのでCALLによるインターアクティブな英語学習を継続したいと考える学生が増えた。

Due to the predominance of the traditional grammar teaching method, students in Saudi Arabia do not have a positive attitude towards learning English. The author adopted CALL usage for his English class and investigated the changes in his students' performance and attitudes toward learning English. In his results, 90% of the experimental group of students responded favorably towards the use of CALL in the English classroom.

発表2: Attitude change towards novel technologies in foreign language teaching situations

発表者: Grace Weibb, Kaori Kabata

内容: 日本語クラスにSANAKOという学習ソフトを導入し、新しいテクノロジー利用の学習への態度の変化や学習効果を調べた。その結果、リスニングやスピーキングに対しては学習効果が上がり、学習者の態度にもポジティブな結果が出た。しかし、リーディングとライティングについてはネガティブな結果が出た。特にペアワークやグループ活動はあまり上手くいかなかった。従って、リーディングやライティングの学習にはテクノロジー利用による学習効果には限界があると考えられる。

In the Japanese class, they used an interactive software called SANAKO and examined the learners attitude and performance. Positive results were obtained in listening and speaking. However, negative results were shown in reading and writing. Particularly, they found that some group activities and pair work were not effective. Therefore, according to their research, technologies have limitations in language teaching, and supplemental study materials for teaching reading and writing are necessary.

発表3 : Students' participation in and views on e-portfolio learning in correlation to academic ability

発表者 : Kwok Kwan Yuen Linda

内容 : 通常の授業のほかにe-portfolio systemを利用して、自律学習に参加させた。モチベーションを高めるために学習者へはボーナス得点を与えた。20のtaskを準備し、8から10のtaskを完了した学生に10ポイントを与えた。その結果、90名のうち34名の学生の評価がこれにより上がった。しかし、学習者の英語の成績とe-portfolio利用による学習との間には明らかな相関関係は見られなかった。

To promote self-learning, the presenter introduced an e-portfolio system in her classes. To encourage students to participate in the program, she gave bonus points for the completion of certain tasks. As the results, 34 out of 90 students were upgraded by the self-study. However, it wasn't clear whether the e-portfolio projects played a significant role in helping learners improve their English skills.

■Presentation 5 [8月7日 (水) 14:30~16:10]

409室

発表1 : Using Praat and Moodle for teaching segmental and suprasegmental pronunciation

発表者 : Ian Wilson

内容 : 動画を多用する発表だったが、時間通りの進行で無事に終了した。Moodle、Praat、英語音声学の基礎知識がないと理解が難しい内容であるにもかかわらず、5件の質疑も発表の発展性を示した音声指導に多くの示唆を与えるものであった。

発表2 : Building a lexical syllabus on Moodle for EFL productive academic vocabulary

発表者 : Ming-Chia Lin, Hsien-Chin Liou

内容 : 台湾の大学院生による初めての国際学会発表であり、発表時間がやや超過し質問が2件ほどしか受け付けられなかった。

発表3 : Academic writing with blogs and a Moodle forum

発表者 : Marcel Van Amelsvoort, Michael Beamer

内容 : 持ち込みのパソコン(Vista)がSEの応援でもプロジェクタに投影できず、結局は口頭のみによる発表になってしまった。しかし、質疑が活発であったため、時間が過ぎても会場に多くの人が残り、ポスター発表のような感じになった。

全体的には持ち込みのパソコンによるトラブルが多いので発表間の時間を10分ほど取った方が様々な対応ができるかと思われる。

410室

発表1 : Corpus-based analysis of modals in consecutive sentences

発表者 : Robert Chartrand, Hidenobu Kunichika, Akira Takeuchi

内容 : Modal auxiliaries are among the most difficult structures to teach to students of English as a second language, especially when modals are used in consecutive sentences. Natural language processing methods were applied to perform syntactic extraction tasks of modals by using the British National Corpus (BNC) 2007 XML version. The resulting phrases were further analyzed and simplified to extract useful examples of modals for learners of English. T-scores were calculated to find the modals that had the highest occurrences in two consecutive sentences. We describe a method to syntactically identify modal phrases and present the information.

Questions: only 2, about parsing and the data

発表2 : Lexico-grammatical DDL lessons using a bilingual concordancer

発表者 : Kiyomi Chujo, Chikako Nishigaki

内容 : This study will present an effective and enjoyable way for beginner level EFL students to learn noun and verb phrases and targeted TOEIC vocabulary using a parallel bilingual newspaper corpus and guided concordancing tasks and follow-up activities. Our findings for using

lexico-grammatical DDL lessons in this four-year ongoing study will include learner evaluations, the learning effect as measured by TOEIC Bridge, and an analysis of specific grammatical features and structures learned. In addition, we'll also present two other ongoing DDL projects: DDL writing courseware for advanced learners; and the development of our own Japanese-English online bilingual concordancer.

Questions: many questions, on software, exercises, and methodology

発表3 : Scaffolding prompts and a web concordancer as support for language learning

発表者 : Chang Wen Li, Sun Yu-Chih

内容: It has been suggested that corpora and concordances be mediated by means of scaffolding.

However, little empirical evidence has been gathered to support the suggestion. In this study,

36 senior high school students were engaged in a concordance-based proofreading task and we re supported with a series of scaffolding prompts. These prompts were offered in a sequenced order to help the students (1) identify a keyword to enter the web concordancer, (2) draw conclusions from concordances as possible ways to use the keyword, (3) select a best way of keyword usage to answer the proofreading question, and (4) evaluate the chosen answer and the whole concordancing process. To explore the effectiveness of the scaffolding prompts, both quantitative and qualitative measures were adopted, including the calculation of statistical significance based on a pretest-posttest design, the students' introspection on their thoughts and behaviors, as well as a survey to elicit feedback on the scaffolded corpus investigation. The preliminary findings will be reported from three different perspectives: learning product, learning process, and learner evaluation.

Questions: some

411室

発表1: Collaborative language learning in cyber face-to-face interaction: The perspectives of the learner

発表者 : Yuping Wang

内容 : The effectiveness of use of on-line tools such as video chat, text chat, and on-line whiteboard in videoconferencing classes was reported.

Question: The fact the video was not so effective is not surprising. Any good idea to use on-line video?

Answer: It depends on how we use video on the video chats.

発表2 : The effect of Skype-based video chats with volunteer Filipino English teachers (II): Discovering the superiority of video chat

発表者 : Ikuyo Ryobe

内容 : The presenter utilized Skype as the inexpensive tools for video chats to make the students have conversation with a Filipino online English school. The program was fun and interesting for the students.

Question: Was the teaching program by the Filipino classes controlled by the presenter?

Answer: They were independent and not controlled by the presenter.

発表3 : Learner's mechanical errors in Internet chatting and their correction strategies: A case study of Indonesian NNS learners

発表者 : Neny Isharyanti

内容 : The presenter explained the procedures and results of the collected records of online chats and analyzed the errors in them.

Question: What was the activity in the target class?

Answer: Jigsaw activities.

412室

発表1: Focus on form using digital recording for Japanese tertiary level students

発表者: Masako Sasaki

内容: 大学レベルのオーラル・コミュニケーション授業において、学生間の会話をビデオ録画し、それを授業で見ながら特定の文法項目の使用について注意を向けさせることで内容だけでなく言語形式にも注意を向けさせるフォーカス・オン・フォーム教授法の具体的実践報告であった。他者としての学生どうしのやり取りの中から言語習得が促進されるという点で、ビゴツキーの社会文化理論の枠組みからも妥当性を支持するという論旨であった。授業の具体的方法論に関して 更なる改善点等の意見交換があった。

413室

発表1: Limiting writing task freedom by constraining Cmap link type

発表者: Laurie Hunter

学習者のライティング指導について、書かせる内容を教師がコントロールするために、発表者独自の開発によるCmapの技術を応用したメンタルマップの利用を勧める発表であった。質問は3件あった。そのうちの一つは、メンタルマッピングが学習者の背景(文化や環境)によって影響されるものかどうかというものであった。発表・質疑応答とも時間通りに進んだ。

発表2: キャンセル

発表3: Possibilities of Web 2.0 technology in teaching EFL writing: Use of groupware, weblogs and blogging

発表者: Masami Yasuda

内容: 学習者のライティング指導法、特に作品をチェックする方法について、ウェブ上で動作する様々な無料のサービスを用いて行うことができるという提案がなされた。発表自体は質疑応答セッションに5分食い込んでしまった。質問は3件あった。どれも紹介されたウェブ上のサービスについてのものであった。発表は時間どおりに進まなかったが、質疑応答は時間内に終了した。

414室

発表1: Computer-assisted prosody training: Creating software and its findings

発表者: Midori Iba

発表2: Development of a Japanese pronunciation training system for learners' speech recognition

発表者: Masaaki Shimizu, Yukio Iwata, Kazushige Tanaka, Kyoko Komatsu, Junkichi Suzuki

発表3: Improving pronunciation via accent reduction and text-to-speech software

発表者: Ferit Kilickaya

内容: 参加者数は20名から~40名程度で時間により埋まっていました。発表はVocal Trainingを共通テーマとしてまとまりがありながらも、三つの発表それぞれに独自のツールを使った研究成果を出していた。質疑は盛んであったが、時間が足らず多くの方に発言してもらうことができなかった。

502室

発表1: Patterns of language learning in a cross-cultural bilingual kepal project

発表者: Kaori Kabata, Yasuyo Edasawa

発表2: Student motivation and satisfaction in learning English and culture in the BBS-based Intercultural Exchange Project

発表者: Naoko Kasami

発表3: We Argentines are not as other people: Collaborative learning online in an under-served country

発表者: Marie-Noëlle Lamy

内容 : At Room 502, the audience witnessed a variety of aspects where ICT-mediated cross-cultural communication can be utilized pedagogically. The first presentation, based on data from a bilingual/bicultural keypal project, focused on differences in the language learning style. The second presentation reported favorable changes in learners' motivation and confidence through BBS-based intercultural information/opinion exchanges. The third presentation outlined an on-line teacher-training program in a country where ICT has not yet prevailed, and discussed what could be the obstacles in collaborative learning online. Approximately 25 participants attended each presentation, and the Session Chair found it quite easy to initiate the follow-up discussion, quite difficult to close it in 10 minutes.

503室

発表1 : The effect of tandem learning on language development

発表者 : Jack Bower, Satomi Kawaguchi

内容 : This presentation was about language development through tandem learning between Australian and Japanese university students. The presenters reported that students' syntactic proficiency as well as morphological proficiency was improved through the communication practice using an online chat system. The process of negotiation of meaning was also analyzed to examine how the students managed to communicate successfully.

発表2 : Learner satisfaction in blended learning and implications for CALL implementation

発表者 : Bruno Di Biase, Satomi Kawaguchi

内容 : This presentation was a report about a blended learning project at the University of Western Sydney. The project was designed for Australian students learning Japanese as a foreign language, and it utilized some communication technologies. The BBS used in the class and video clips made by the students were shown in the presentation. The results of the questionnaires on the project were explained by the presenter.

発表3 : Blogging, collaborative writing, and multimodal literacy in an EFL context

発表者 : Hsien-Chin Liou

内容 : This is a case study on writing instruction project at a Taiwanese university where peer review, collaborative writing, and incorporation of multimedia were particularly encouraged. The results of the questionnaire on the students' perception on technology integration and task design were reported by the presenter. Some cases of online works were also examined to investigate the students' use of multimodal texts on the blog with semiotic awareness.

■Presentation 6 [8月8日 (金) 10:10~12:05]

409室

発表1 : Development of and effectiveness in vocabulary learning content for mobile phones in Japan

発表者 : Yukinari Shimoyama, Midori Kimura

発表2 : The development and evaluation of a mobile language learning application for listening comprehension in English: Towards a successful design of mobile language learning application

発表者 : Taishi Akiyama, Etsuji Yamaguchi, Jun Nakahara, Mai Nakano, Masanori Yamada, Masaki Miyake, Takeru Nagaoka, Noriko Shimada, Richard Harrison, Satoshi Kitamura, Yoshikazu Tateno

発表3 : Skype : An evaluation and a training tool in an ESL classroom

発表者 : Revathi Viswanathan

内容：参加者も平均30名を越え、全体として活気のある会場であった。極めて活発な質問やコメント（総数13件）が寄せられ、質疑応答の10分間を殆ど使用した。

・セッション開始の15分前に集合という指示を守らない発表者があり、進行に多少影響を与えた。3番目の発表者（海外）が発表時間直前まで現れず、また、事前チェックをしていなかったため、パソコン接続に問題も起き、司会と会場係が慌てて対応する場面があった。

410室

発表1： Development of web-based vocabulary courseware: A study on effective vocabulary learning

発表者： Junko Takefuta

内容：Prof. Takefuta presented her courseware for vocabulary development with clear evidence that it was effective. Students could master 300 words during the school term. It was pointed out, however, that 300 words is only a small part of the total vocabulary required for active use of English.

発表2： Corpus research and its application in ESP programs: Lexical profiling of reading materials using frequency vocabulary lists

発表者： Akiko Hagiwara, Mao Naito

内容：Prof. Hagiwara and Naito presented their research on lexical profiling that allows the identification of the lexical items that are most frequently used in specific, narrow genres. It can be used for the targeted learning material.

発表3： A CALL project with low-level EFL students

発表者： Aaron P. Campbell, Ian Brown, York Weatherford

内容：Professors Campbell and Brown presented their course at Kyoto Sangyo University that is used with low-level general education students. They outlined the challenges involved in motivating and accessing such learners.

411室

発表1： Evaluating learners' autonomy in a blended course to teach Spanish for medics

発表者： Cecilia Trevino

内容：This research compares the attitude of learners toward online and to face-to-face teaching and learning, focusing on the development of learner's autonomy and the process of building the online community. Using WebCT, it was reported that this teaching approach raised the awareness of learners' autonomy.

発表2： The E-job 100 project: CALL for increasing motivation for English learning in Japan

発表者： Akiyoshi Suzuki, Teresa Kuwamura

内容：They reported a web-based system called the "e-job 100" project. The project intended to increase the motivation of Japanese students to learn English. The website has videos of various occupations and people working in each industry. The project had a good effect on raising motivation for learning English because students could get to know what kind of English skills are necessary for each job.

発表3： キャンセル

412室

発表1： Facilitating learner reflection in individual learning in an LMS: An exploratory study in EFL reading skill development

発表者： Maiko Ikeda, Osamu Takeuchi, Seijiro Sumi

発表2： Developing a computerized readability estimation program with a web-searching func-

tion to match text difficulty with individual learners' reading ability

発表者 : Yoshinori Miyazaki, Ken Norizuki

発表3 : Using a perceptual measure to evaluate students' acceptance of digitally created English learning content

発表者 : John Clayton, Jun Iwata

内容 : The room was almost full of participants. The student staff worked well and carried out their duties. Prof. Hiroshi Shimatani, who was in charge of the procedures at that room was kindly helped me to make everything go nicely and perfectly, too.

As for the procedures of the presentations, Prof. Maiko Ikeda was the first presenter and she was able to finish her presentation at the stroke. The second presenter, Prof. Yoshinori Miyazaki, had a lot of contents to explain, so he spoke very fast. We were not able to use 10 minutes fully for Q&A period. Only several questions were made then in about 5 minutes. The last presenter, Prof. Jun Iwata, was able to finish his presentation at the stroke and we had many questions and answers. As a whole, the presentations of this room stayed on schedule and all the participants were able to enjoy them very much.

413室

発表1 : Using anime as a teaching tool in US undergraduate courses

発表者 : Hiroko Furo

内容 Dr. Furo, who is an alone instructor of Japanese Studies through amine at Illinois Wesleyan University, introduced anime-use in class as an effective teaching tool. Comparing three groups of participants: anime club members; Japanese language students; and Japanese-related course students, she concluded anime helped learners understand social issues because of its attractive components and simplicity.

The method of actual integration of anime into the classwork and the concrete titles of anime applied in class were asked by the audience.

発表2 : The effects and learning management of English e-learning at Kyushu University

発表者 : Toshihiro Shimizu

内容 : Prof. Shimizu, who is in charge of e-learning, mainly reported the results of pre and post TOEFL tests conducted to evaluate the effects of "Gyuto-e", the Internet-based English learning program, in class. No statistically significant gain in scores was found in any of several groups from freshman through junior. He concluded that e-learning was effective for students of higher level and highly motivated students, however, that students' motivation influenced the results. There was a question about the students' feedback after using "Gyuto-e".

発表3 : Integrating CALL into the curriculum

発表者 : Alan Bessette

内容 : This research group reported the CALL-based curriculum whose main component is Long man English Interactive with other web links available only for enrolled students. They introduced how they implemented and how students tackled with it. Students were required to write learning journals whose purposes were to encourage students to pay closer attention to the target language and to keep their motivation high.

One asked how instructors guided students to utilize their abundant links to various English learning Websites. Another asked the concrete utilization of L.E.I. showing his own implementation of the same program.

414室

発表1: The challenge of brainstorming over the Internet: Reflections on a Finnish-Japanese business communication research project

発表者: Virpi Serita

内容: 第1発表では、日本語を学習しマーケティングを専攻する学生の日本研修に、ウェブ環境を導入したことによるグループ学習成果の変化と学生の反応が報告され、学生が対面環境をより好む要因や、スカイプの利用の有無等についての質問がだされた。

発表2: キャンセル

発表3: Intergrating tutors and CALL in the EFL curriculum

発表者: Robert Gettings

内容: 第3発表では、CALLを利用したチューターと学生間のコミュニケーションの活性化や、Moodleを利用した自己評価の習慣づけ等が報告され、運用上の課題や学生の反応等について質疑応答があった。

502室

発表1: Towards a cultural history of CALL

発表者: Gary Motteram

内容: アジア人英語学習者を対象とした実際の指導の紹介を交えての、マンチェスター大学で教鞭をとるMotteram氏による研究発表。ヴィゴツキーから始まる学習者理論の変遷とCALLの技術面での歴史的変遷を踏まえた、理論と実践の両面からのアプローチであった。

発表2: Essential conversations: Four visions of CALL

発表者: Mark Pegrum

内容: CALLを取り巻く議論に4つの方向性を与え、整理することで、より効果的なモデルの構築を試みた、西オーストラリア大学のPegrum氏による画期的な研究発表。発表の後のディスカッションも熱が入り有意義な意見交換の場となった。

発表3: Learning after school: Construction of a database of pre-and post-graduation language-learning biographies

発表者: T. Ohta & I. Waragai

内容: 卒業後も継続的に学習をサポートするために、慶応大学が構築したe-learningのパイロット版の紹介。発表後も動機づけと登録者への具体的な対応についてディスカッションが交わされ、本格実施への改良点についての意見が交わされた。

503室

発表1: Computer keystroke logging and the study of revisions in the EFL classroom

発表者: Erifili Roubou

内容: 会場では特に機械類などのトラブルはなし。質問の時間には積極的な議論が交わされ、4人から質問があった。質問の中には、コンピュータ使用歴が違うL2学習者、どの英語のレベルの学習者をどのように比較するか、などがあった。

発表2: Implicit and explicit CALL instruction with a concordancer: The acquisition of English causative alteration

発表者: Wang Yuxia

内容: 会場では特に機械類などのトラブルはなし。コーパス分析ソフトを使用し、英語の使役交替の用例を中国人L2学習者にどのように指導するかという発表であったが、質問としては、初級と上級学習者での指導法をどのように変えるべきか、中国人学習者と他の母国語の学習者ではどのような違いがあるか、というものがあつた。

発表3: キャンセル

■Presentation 7 [8月8日 (金) 13:35~15:15]

409室

発表1: Japanese Grammar Wiki learner experience

発表者: Suzuko Anai

発表2: An ngram-based statistical grammar checker ESL learners

発表者: Howard Chen

発表3: キャンセル

内容: "Japanese Grammar Wiki learner experience"は、参加者15名で、実践報告的な要素があり、質問も具体的な内容に及ぶものが多かった。活発な質疑応答となった。一方、d-132の"An ngram-based statistical grammar checker ESL learners"は参加者10名で、学生が書いた英文をngramの手法を使って自動的に評価するというものであった。発表後フロアからの質問の手が挙がらず、司会者が2, 3問質問をした。

410室

発表1: Lexical development using spreadsheets

発表者: Toshihiko Shiotsu

発表2: A framework for automatic generation of grammar and vocabulary questions

発表者: Ayako Hoshino & Hiroshi Nakagawa

発表3: The effects of repetition on vocabulary e-learning

発表者: Yuka Ishikawa & Yukie Koyama

内容: 第一発表(Toshihiko Shiotsu)には22名が参加。スプレッドシートという手軽な道具を使うことで、持続しやすい学習環境を目指す語彙学習の研究で、多義語の学習の問題について質問があり議論された。第二発表(Ayako Hoshino & Hiroshi Nakagawa)には20名が参加。ネット上のニュース記事から、文法、語彙問題を生成するプログラムの開発と日本語教育への応用について議論された。第三発表(Yuka Ishikawa & Yukie Koyama)には26名が参加。語彙を繰り返し覚える際の効率を高めるe-learningシステムの開発と検証結果が発表された。

411室

発表1: CALL e-portfolios: Developing reflective and autonomous learning

発表者: Salomi Papadima-Sophocleous

発表2: Towards the computer-assisted learning of English phraseology

発表者: Martin Warren

発表3: The effects of "CALL-alone" and "CALL-plus": L2 vocabulary gains and learners' attitudes

発表者: Chieko Kawauchi

内容: 第1発表者: 現職教育の可能性、受講生作品の公開と閲覧許可の範囲等について、質疑が交わされた。

第2発表者: 句の自動選定におけるfalse negative と false positive の問題を中心に技術的質疑が交わされた。

第3発表者: CALLが養成する語彙知識の深さと広さ、受容能力と発表能力での効果の違い等について質疑が交わされた。

412室

発表1 : Comparison between online and paper-based reading tests

発表者 : Chieko Oba

内容 : Chieko Oba presented the findings of a research study that compared the comprehension question test scores of students studying the exact same reading content - some from a computer and others with a traditional paper version. It was interesting to learn that students appear to score much higher when taking the same test on paper than from a computer screen. Members of the audience listened attentively and were ready with questions to ask afterward. In particular, they wanted her to elaborate on reasons WHY she thinks students seem to do better on paper-based than on computer-based tests.

413室

発表1 : Digital natives vs. EFL digitalized learners: A case study investigating Taiwanese computer literates in a computer-based EFL classroom

発表者 : Po-Yen Hsu, Yu-Ting Hung

発表2 : Voices from EFL teachers: A qualitative investigation of teachers' use of CALL

発表者 : Seijiro Sumi, Osamu Takeuchi, Maiko Ikeda

発表3 : Promoting discussion skills in the CALL classroom

発表者 : Adam Clifton, Satoko Ito, Michael Shawback

内容 : In this session, "CALL in curriculum" was discussed from three different perspectives. Firstly, Hsu and Hung mentioned that CALL curriculum for "digital natives" needs teacher assistance, so that they can transform their learning style from traditional to digitalized one. Then, Sumi, Takeuchi and Ikeda proposed that, based on their finding that EFL teachers consider CALL facilities as something impedes face-to-face interaction, CALL should be normalized in a way that really facilitates language learning. Finally, Clifton, Ito and Shawback demonstrated their CALL-based communication exercises, which enhance communication between teacher and learner, and learners themselves. Each presentation was followed by heated discussions with floors.

414室

発表1 : Questionnaire research based on the students' evaluation of creating webpage projects at the Department of Information and Science

発表者 : Koji Morinaga

内容 : The presentation was conducted smoothly, with four questions concerning the contents which were used in the project, the copy rights of the contents, and the purpose of the webpage project in English class.

発表2 : Collaborative development of EFL in Vietnam through open source software

発表者 : John Brine, and E.Marcia Johnson

内容 : The presentation was conducted smoothly, with five questions concerning the contents which were used in the project, the copy rights of the contents, and the purpose of the webpage project in English class.

発表3 : A practical report on enhancing English ability through the effective use of CALL

発表者 : Toshiko Yoshimura and Haruo Nishinoh

内容 : The presentation was conducted smoothly, with five questions concerning the contents which were used in the project, the copy rights of the contents, and the purpose of the webpage project in English class.

502室

発表1: Willingness to communicate online in the L2

発表者: Christine Apple

発表2: Enriching the students' Learning experience while "enriching" the budget

発表者: Alexander Ludewig

発表3: CALL, Bangladesh and BBC learning English"

発表者: Paul Scott

内容: 本会場での発表は、Christine Apple氏による"Willingness to communicate online in the L2"、Alexander Ludewig氏による"Enriching the students' Learning experience while "enriching" the budget"、Paul Scott氏による "CALL, Bangladesh and BBC learning English" が行われた。オンライン上での会話、SkypeやBBCによる授業などが紹介され、18名ほどの聴衆から、予算、ネット環境、学習者の反応などについての質問があった。

503室

発表1: Using mobile phones in the EFL classroom

発表者: Aaron P. Campbell

発表2: A natural-language paraphrase generator for on-line monitoring and commenting incremental sentence construction by L2 learners of German

発表者: Karin Harbusch, Gerard Kempen, Theo Vosse

発表3: A prototype for a dedicated task-based VOIP eTandem language exchange environment

発表者: Nobuko Kishi, Tony Mullen

内容: 本セッションでは、3つの発表が行われ、参加者は10名程度であった。最初の発表では、携帯電話の利用をした学習活動が紹介され、具体例として、blogシステムを利用して、英語による日記を作成させる実践例が挙げられた。次の発表では、自然言語処理技術を利用した文法構造のエラー検出システムの機能説明がなされた。最後の発表では、Skypeなどの音声チャットによるコミュニケーション活動促進のため、タスクベースのWebアプリケーションが紹介された。フロアからは、各サービスやアプリケーションについて、使用感に関する質問や実際に使用してみたいといった要望が出された。

■Symposia

Symposium 1 [8月7日(木) 10:10~11:40]

Using Video iPods to Deliver Class Content

発表者: William Pellowe, Nicolas Gromik(via Skype), Robert Chartrand

内容: The presenters symposium consisted of presenting the uses of the various versions of iPods, including the newest iTouch, which is very similar to the iPhone without the phone function. Information presented included the mechanics of how to use the hardware as well as how to integrate the technology into the classroom. One presenter, Robert Chartrand, has even established a "mini-CALL" lab consisting of 40 iTouch units at his institution. One of the largest concerns for all the presenters was that the iPod technology is viewed mainly as an entertainment outlet, but with proper training this could be overcome.

Audience response:

The discussion was lively and varied widely in interests/concerns. One concern was the interaction of multiple languages. While the iPods OS can be switched among many languages, the presenters did not know if the Internet browsing function could be as well. Another major concern was the ability of multiple units connecting to the same wireless source without slow-

ing the connection. Overall, the response was positive but guarded due to the financial and technological support and resources needed to acquire the iPod technology.

Symposium 2 [8月7日(木) 14:30~16:00]

Mobile technologies and language learning in Japan: Learn anywhere, anytime.

発表者: Midori Kimura, Hiroyuki Obari, Yukinari Shimoyama, Yoshiko Goda

内容: 携帯電話や他の携帯機器に関して、普及の現状、学生たちの活用能力、外国語学習に利用可能な機能、意識調査の結果などが紹介され、それらのLMS端末としての有用性について報告された。これにより、ユビキタス学習環境創出の一部分を担う教育機器メディアとしての可能性が明らかにされた。現在運用中の携帯電話を使った学習プログラムの紹介もあり、参加者からは同様のプログラム作成のアドバイスを求める声もあった。

Symposium 3 [8月8日(金) 10:10~11:40]

Examining proficiency, stability, and automaticity in SLA using eye-movement and brain science approaches

発表者: Toru Kinoshita, Setsuko Miyamoto, Hiroyuki Imai, Harumi Oishi

内容: 朝一番のプログラムということもあり、発表内容の濃さに比べて参加者は少なかったが、認知的研究で著名な先生方が数名参加していた。読解タスク時の視線運動の速度と安定性が習熟度と呼応する点、リスニングタスク時の脳内言語野の血流量の観察から、安定性が言語処理の自動性に関係していることを示す一連の研究であった。会場からはリーディングにおいては、再符号化は無意識のプレセスだが、理解は意識的な部分があり、必ずしも安定性イコール自動性にならない旨の指摘もあった。

Symposium 4 [8月8日(金) 13:35~15:05]

Project Ibunka: An international collaborative online project

発表者: Masahito Watanabe, Namsook Chung, Su-hsun Tsai, Naoko Kasami

内容: 英語学習者がインターネットを利用し、他の国の英語学習者との交流を図り、積極的な英語学習を促すプロジェクトの紹介であった。聴衆は平均15人。4名の発表者から興味深い発表がされ、聴衆から多くの質問があり、積極的な議論が展開された。質問としては、そのプロジェクトから学習者の学習動機をどのように測っていくか、学習者が文法的に間違った英語を使用した場合どのように修正などをしていくのかといったものがあつた。

■Poster Session

ポスター・セッションは、8月6日、7日、8日の3日間、4時前後から30分間実施されたが、3日とも大変盛況であった。コーヒー・ブレイクの時間と場所が重なったために、多くの人々が気軽に訪れ、混雑を感じるほどの盛況ぶりであった。セッションの時間は30分しかとっていなかったが、発表者とのコミュニケーションは途切れることがなく、1時間以上活発な質疑応答が続いていたブースも少なくなかった。

■Courseware Showcase

当会場の各アイランドの大きさ、設置数、会場の広さは、参加者数と適合していたようである。連日、開始とともに各アイランドに2~6名程度の参加者が集まり、デモ終了後は適宜入れ替わり、時間終了後も活発に質疑応答が続けられていた。各アイランドの参加者数は、平均すると10名程度であった。使用可能機器(プロジェクター等)に関する英語noticeの解釈の違いが見受けられたが、他に大きな問題もなく終始盛況であった。

■Bay Cruise

7日の晩のイベントは、マリエラ号による博多湾クルーズであった。天候にも恵まれ、予定通り19時に出港。Dr. Ana Gimeno-Sanz (EUROCALL)の挨拶のあと、大八木廣人先生による乾杯によって宴が始まった。途中ピアノやバンドの演奏で宴はさらに盛り上がり、参加者は海から眺める福岡の夜景を楽しんだ。最後に、沿岸で開催される花火大会を海から眺めるというすばらしい体験も加わって、予定よりも約

20分遅れて、21時に宴を終了した（参加数150名）。

■Welcome Reception

8月6日午後7時より西南学院大学クロスプラザにて行なわれた。300名を越える出席者があり、CPCメンバーの紹介、福岡観光コンベンションビューロー・TOEIC運営委員会・日本英語検定協会への感謝状贈呈の後、Asia TEFL副会長小池生夫氏の音頭で乾杯となった。着物ショウや去 水流空手演武、抽選会なども行なわれ、終始和やかな雰囲気の中1時間半に渡って参加者同士が交流を深めた。

■Special Project [8月7日（木） 16:50～18:20]

Special Project 1

Moving Learning Materials from Paper to Online and Beyond

発表者：Thomas Robb, Toshiko Koyama, Judy Noguchi

内容：This session was a special project sponsored by the Kansai Chapter of LET. The purpose of the project was two-fold. One aim was to move existing teaching material online and make it available to students. The other was to observe the process of moving the material online itself to see what pitfalls there might be when this is attempted by non-technical, practicing teachers.

In summary, there were two sub-experiments. One at Mukogawa Women's University where vocabulary study material and quizzes for English affixes for pharmacology students were made available via Moodle for both computer and mobile phone access, and the other, at Osaka Ohtani University to make quizzes available both online and the textbook for computer literacy licenses. Despite the differences in the purpose of their learning and the conditions of the experiment, both had similar results. While the students stated that they wanted online materials and thought that they would be useful, in fact, only a handful of students regularly used them.

Concerning the process of creating the online materials, we discovered that the process requires careful and frequent mentoring. The presenters recommend that consultants on both CALL pedagogy and technical be readily available and that adequate time be allowed to iron out technical glitches.

Special Project 2

TTS (Text-To-Speech) Technology for Language Teaching

発表者：Junichi Azuma, Hideto Harashima, Chew Lee Chin

内容：After Junichi Azuma's brief Introduction to TTS technology, with information of several popular English TTS speech engines available today, Hideto Harashima talked about "VoiceText", one of the cutting-edge TTS software packages, with some tips for manipulating prosodic features. Demonstration of how these TTS generated voices can be actually used as online listening quiz materials, etc., was also given. Chew Lee Chin talked about a 2-year research project on computer-assisted assessment (CAA) in Singapore which explored the possibility of innovative multimedia tests for English Language at primary levels as an example of a Text-To-Speech software application for creating quality test materials for listening comprehension.

She also dealt with the problem of psychological aspects of multimedia tests in a quantitative way. These talks triggered a lot of serious questions and comments from the floor and it seemed quite difficult for the moderator to close this symposium-style special project.

Special Project 3

ICT-based English Language Education toward Creating Asian-Pacific Intelligence

発表者：中野美知子

内容：早稲田大学がアジア諸国を中心とした外国の大学と連携して行っている遠隔教育の報告である。

「アジア太平洋地域における知の共創」を目指しており、オンデマンド授業と、ビデオ会議システムやチャットシステムを用いて外国の大学と共同で行う異文化交流授業が特徴である。学生が作成したパワーポイントを交えた報告は理解しやすく、質問の時間は、聴衆の希望により発表時間に割り当てられた。

Special Project 4

Start and Interactive e-Learning System Based on Smartive

発表者：吉岡信和・本位田真一

報告：講演の後、ネットに接続したPC 4台を利用して20分程度のデモを行った。質疑については目の前にあるプロトタイプについてのみ集中し、根底にあるスマーティブそのものの技術についてはなかったのは少々残念にも思えた。内容は、学習者や指導者のポリシーをコンテンツに入れ込むことで、ヒューマンライクな指導が可能になり、個々の学習者の特性に対応した指導ができる可能性がスマーティブにはあると感じさせるものであった。

Special Project 5

CALL in an ESP Context: TUMSAT' s Maritime English Initiative

発表者：高木直之

概要：現代GP対象となった海洋大学の海事英語教授プロジェクトの報告。海事英語を事例として、ESPの特性、ESP教授者の課題等が具体的に提示され、海事英語検定・ボキャブラリービルディング・外国語アクセントを伴った英語のリスニング演習・英語による操船バーチャル演習等、CALLによる学習環境の改善例が示された。少人数でのセッションであったため、ESPに関心を持つ参加者と講師の間で随時質疑応答も可能となり、充実したセッションとなった。

■Keynotes

Keynote 1 [8月6日(水) 9:30~10:30]

Advancement of speech data processing technology and the future of language learning environments

講演者：Katsuhiko Shirai

内容：講演内容についてはwebページ参照のこと。

<http://www.j-let.org/~wcf/modules/tinyd10/index.php?id=5>

Keynote 2 [8月7日(木) 9:00~10:00]

CALL: A strange Attractor in Language Education in South America

講演者：Vera Menezes

内容：講演内容についてはwebページ参照のこと。

<http://www.j-let.org/~wcf/modules/tinyd10/index.php?id=1>

Keynote 3 [8月7日(木) 13:20~14:20]

Errors and Intelligence in CALL: Bridging a World of Diverse Learners

講演者：Trude Heift

内容：講演内容についてはwebページ参照のこと。

<http://www.j-let.org/~wcf/modules/tinyd10/index.php?id=3>

Keynote 4 [8月8日(金) 9:00~10:00]

Bridges, Chopsticks and Shoelaces: Normalising Computers and Computer Technologies in Language Classrooms

講演者: Stephen Bax

内容: 講演内容についてはwebページ参照のこと。

<http://www.j-let.org/~wcf/modules/tinyd10/index.php?id=2>

■Panel Discussion [8月8日(金) 15:55~17:25]

CALL Bridges the World

Mike Levy (Chair, World CALL 2008)

Ana Gimeno Sanz (President, EuroCALL)

Robert Fischer (President, CALICO)

Thomas Robb (President, PacCALL)

Osamu Takeuchi (President, LET Kansai Chapter)

In the final World CALL 2008 panel session, leaders of four major CALL organizations from around the world discussed their views on the future of CALL in relation to their own organizations and regions. Present in the discussion were Mike Levy (Chair, World CALL 2008), Ana Gimeno Sanz (President, EuroCALL), Robert Fischer (President, CALICO), Thomas Robb (President, PacCALL), and Osamu Takeuchi (President, LET Kansai Chapter). The session provided a fascinating perspective on the development of CALL worldwide and some of the current issues that CALL faces.

In the first part of the session, the individual panel members presented their views on the future of CALL. Osamu Takeuchi argued that bipolarization of learners into motivated/poorly motivated camps is taking place, and suggested motivating the poorly motivated through CALL. In order to achieve this end, CALL should be coupled with good teaching methods. Teachers should carefully design and implement courses so that there will be many requirements and opportunities to use CALL, making CALL as indispensable and as natural as possible. Takeuchi also emphasized the importance of taking contexts into consideration and making use of CALL to suit the needs of their respective regions. Some of the ideas he discussed in relation to his particular region were: helping slow or false beginners, taking care of unsuccessful learners, and helping athletes on college sport teams.

Thomas Robb discussed normalization. The question he raised was how to reach people without full access to technologies and computers. We need to see CALL diversify and become a part of other associations so that many teachers practice CALL. We also need to provide more training.

Robert Fischer described the changes CALL has undergone in the US context. Emphasizing the fact that CALL has gained legitimacy in language education, he said that it is making healthy progress, embracing a variety of disciplines such as course wares, teacher education, second language acquisition in technology, and CMC.

Ana Gimeno Sanz asserted that normalization has been achieved in the European context. CALL is now part of normal college life. More emphasis is placed on the learner and lesson technology now. At the annual EuroCALL conferences, the focus has shifted from developing CD-ROMs to the social net world and to mobile learning. Gimeno Sanz concluded that our responsibility now is to extend CALL to underserved regions.

Following these individual presentations, the discussion was opened up to the audience, and questions were invited from the floor. A number of people in the audience addressed the issue of normalization. A participant from Iran said that Iran is still lagging behind, and that

they need help. A Venezuelan participant reported that the British Council gave teacher workshops. Furthermore, local teachers there organized themselves and started a CALL association. They are producing and offering free courses to teachers. A participant from Ukraine reported that they had contacted EuroCALL and organized conferences and teacher training. A participant from Argentina said that CALL does not exist there. A few participants from underserved countries urged the sharing of technology with them. Many people from around the world contributed to the lively discussion

Towards the end of the session, Levy steered the discussion onto the future of CALL. Fischer announced that CALICO will soon be starting LISTSERV. Some of the suggestions from the audience were: have a workforce for international research projects, conduct collaborative research on topics such as talking face to face and exchanging classes across the globe. Virtual conferences can be held. A participant proposed holding World CALL 2013 in Brazil.

The topic then shifted to World CALL 2013. After a brief explanation as to how World CALL conference sites are selected, Levy asked the audience what would be the hot topics in 2013. Robb predicted that mobile technology would be a major platform for language learning.

Some of the topics suggested were: the ethical aspect of research, and protecting students from the Internet.

The panel discussion proved an excellent way to end the conference. It summed up the undercurrents that were flowing through the conference, such as normalization and emphasis being placed more on the learner and less on technology. Moreover, voices from different parts of the globe were heard and their points given serious consideration. Last but not least, the student assistants running around the lecture hall with microphones diligently helped all our voices to be heard.

以上